

同時上映

核の大地 プルトニウム物語

13:00~14:24

監督: 渡辺謙一



わたなべけんいち

1975年、岩波映画入社。1997年、パリに移住、フランスや欧州のテレビ向けドキュメンタリーを制作。

私たちはなぜ核政策を転換できないのか。

なぜ脱原発に舵を切れないのか。

プルトニウムをめぐる日米仏3国の核の歴史が原子力産業の終わりを物語る。

あれから一〇年
311を私たちは決して忘れない

2021年9月26日(日)

弘前市民会館大ホール 13時~

(12時30分開場)

小出裕章講演会

原発事故は終わっていない

14:40~16:30

殺していい命も、殺さない命もひとつとして存在しないように、故郷を追われ、生活も奪われ、苦闘の中で生きることを強いられてもいい人など、ひとりもいません。誰もが同じように穏やかな生活を送るべきなのです。そのことを福島第一原子力発電所事故から10年が過ぎようとする今、多くの人に伝えたいと思います。



こいでひろあき

工学者。元京都大学原子炉実験所助教。専門は放射線計測、原子力安全。

★チケット料金

一般 ¥1,000

大学生・障がい者 ¥500

高校生以下及び被災者無料

第17回 *after311* 脱原発弘前映画祭

主催: after311脱原発弘前映画祭実行委員会 代表 仁平 將

協賛: なくそう原発・核燃、あおもりネットワーク

協力: NPO harappa

問合せ Tel 070-6952-2614(竹浪)

日本にはいまだに解除されていない緊急事態宣言がある

小出裕章著作最新刊『原発事故は終わっていない』の「はじめに」から一部を紹介します。



小出裕章 プロフィール

1949年東京都生まれ。原子力平和利用の夢を抱いて東北大学工学部原子核工学科に入学するが、女川原発の建設計画で原子力発電の危険性に気づき、以後一貫して反原発の立場から研究と発言を行う。元京都大学原子炉実験所助教。「熊取六人衆」の一人。人形峠ウラン鉱床開発に反対する住民運動の支援に関わる。福島原発事故については原子力工学の専門家として内部被曝の問題を提起し、とくに幼児や妊婦などの置かれた状況を改善するよう提言。2015年に定年退職し、松本市に移住。

2021年3月11日、この日は、東京電力福島第一原子力発電所で事故が起きてから10年にあたります。地上でどれだけ過酷な事故が起きようとも、時だけは確実に、そして容赦なく流れていくことを改めて不思議に思います。……

事故が起きた時、私は京都大学原子炉実験所に勤務していました。

実験所では私が担うべき仕事があり、事故当日も放射線管理区域内で仕事に従事していました。翌日以降もその手を抜くことはできないうえ、事故の状況を正確に知るための仕事が増え、それに加え、マスコミの取材やテレビやラジオへの出演、さらに、講演会などで各地を奔走することになりました。そのため、事故後しばらくの間、休みはおろか、寝る時間すらも満足に取れない状態でした。

でも、私にとってこれは戦争なのだと思います。国や電力会社、原子力産業など巨大な力の前では、私はあまりにも非力で、福島第一原子力発電所の事故が起きることを防げませんでした。私は原子力の旗は振りませんでした。原子力の場にいた人間として、事故が起きる前に原子力をやめさせることができなかつたことについて大きな責任があります。国や電力会社から決して出てこない情報を、自分なりに伝えていかなければいけない、その一心でした。

2015年3月に京都大学原子炉実験所を退職した後も、自分にできることをやってきたつもりですし、これからも続けたいと思います。

ただし、人間が生き物である以上、年をとることから逃れることはできません。もちろん私もそうで、いつまでも若い時と同じように活動はできません。退職前から続けてきた講演も、私にしかできないことは何かを考えながら、より一層、厳選しようと思います。

私が講演を引き受ける際に大事にすることが3つあります。

ひとつは“敵地”であること。原子力推進派と公平に議論できるなら、いつでもどこでも行くつもりです。次が“現地”です。福島をはじめ、原発のある場所で原発とともに生きる人たちに原子力の真実を少しでも伝えたいと思っています。3つ目が“若い人たちを相手に話ができること”です。若い世代に福島第一原子力発電所が今どうなっているのか、福島の人たちがどのような苦難を強いられているのか、そして、原子力がいかに危険なものかを伝える必要があると考えています。……

2020年は新型コロナウイルスの猛威が日本だけでなく世界中を襲いました。2021年1月には2度目の緊急事態宣言が出されました。でも、日本にはいまだに解除されていない緊急事態宣言があります。それが2011年3月11日に発令された「原子力緊急事態宣言」です。……

同時上映

フランス、日本、米国。

3国の原子力施設の中でも、使用済み燃料の再処理施設
すなわちプルトニウムの生産工場と周辺住民、自治体との関わりを描く

核の大地

TERRES NUCLEAIRES Une histoire du plutonium

プルトニウム物語

プルトニウムを介し日米仏の地政学的関連を検証する

🇺🇸 米国がプルトニウムを原爆材料として発見・生産した歴史

🇫🇷 フランスが使用済み燃料の再処理という形でプルトニウムの取り出しを商業化した経緯

🇯🇵 米仏の隙間に食い込んだ日本の核燃料サイクルシステム

監督:渡辺謙一 プロデューサー:ポール・サドゥン、渡辺クリスティーヌ 作曲:ジェローム・クレ 映像:エマニュエル・ヴァレット、ピエール・コール 音声:セバスチャン・サドゥン、岸本崇司、渡辺兼三 編集:マチュー・オーギュスタン 映像調整:アルノ・ランベール ダビング:ロジェ・デュビュイ

制作:ARTE France、KAMI Productions、Seconde Vague Productions

配給:インプレオ 原題:TERRES NUCLEAIRES - Une histoire du plutonium 2015年/フランス/HDV / 84分 kakunodaichi.com

第17回映画祭会場の弘前市民会館大ホールは座席数が1343席。3密を気にすることなく、安心して講演を聞き映画をご鑑賞いただけます。ご家族・知人・友人お誘いあわせの上お出で下さい。
会場 弘前市大字下白銀町1-6 弘前公園内
弘前市民会館大ホール



アクセスはこちら